

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

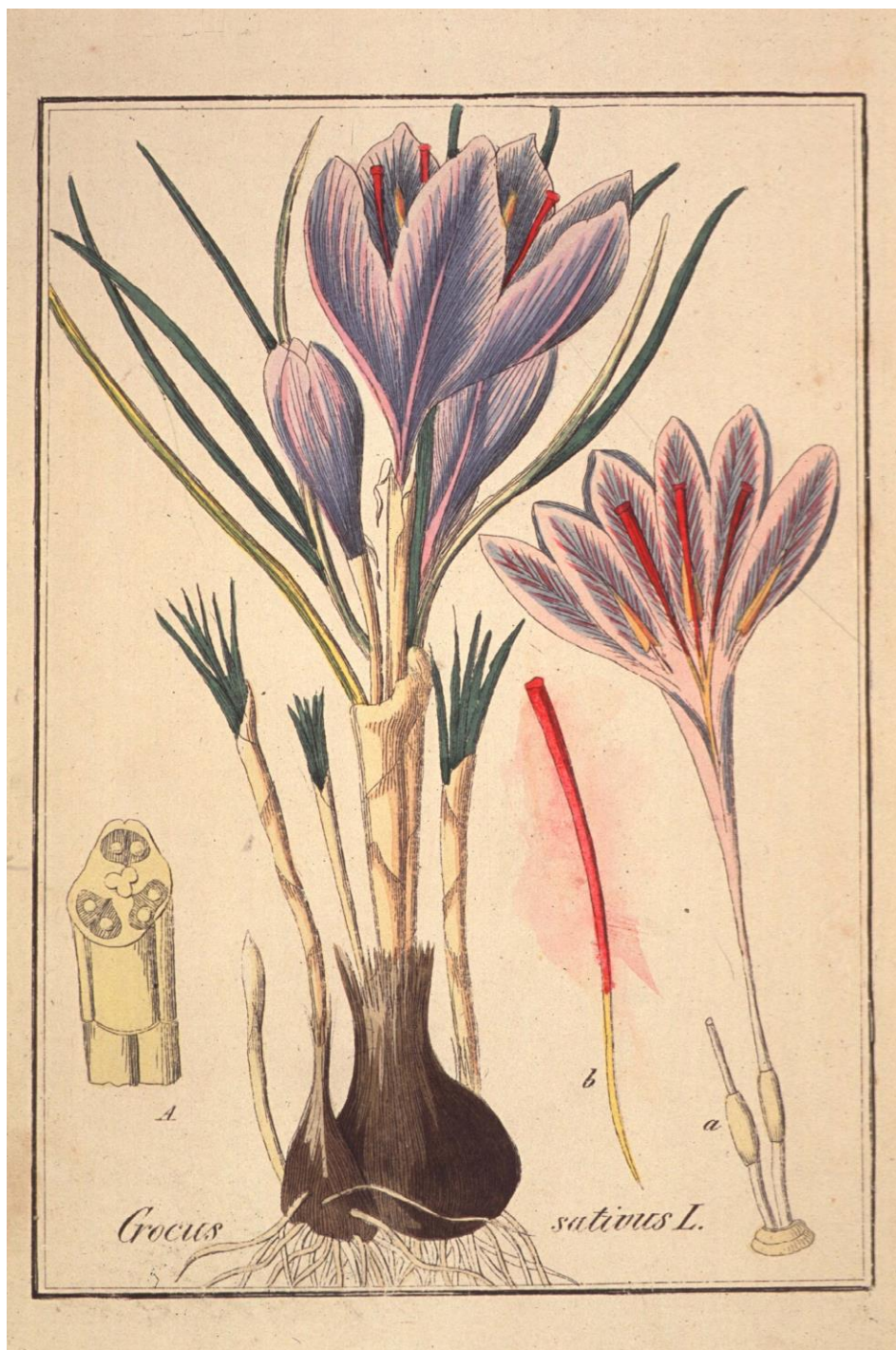
正山征洋先生

第59回

サフランその②



Crocus sativus L. と書かれた植物はサフランでアヤメ科に属する多年生草本です。秋球根から数本の茎を延ばし10月末~11月に赤紫の花を開きます。



3本の雌しべを集めたものがスパイスのサフランです。雌しべにはジテルペンカルボン酸にグルコースがエステル結合し、その先にグルコースが結合した淡赤色のクロシンが含まれます。その他に香り成分であるサフラナール、苦味成分ピクロクロシン等が含まれていて古くからスパイスの一種に位置付けられてきました。

近年の研究から多くの薬理作用が発見されてきました。サフランは血流を良くする作用の他、クロシンはノンレム睡眠作用、抗認知作用、抗うつ作用、抗腫瘍作用等が明らかになり、サフランを睡眠促進剤として投与するケースが増えています。

また、シンガポールでは我々の研究をベースとして、サフランと漢方処方定志丸(人参・茯苓・遠志・菖蒲)を混合したHui Tong カプセルが2018年に認知症予防薬として承認されました。またサフラン、イチョウ葉、人参を配合した塞絡通膠囊(Sai Luo Tong)は抗認知作用の臨床研究が続けられていて、認知症の治療薬の登場に期待が持たれています。

本画は作者年代とも不明です。